

第1章

スタンドポイント・アプローチについての批判的検討

児玉 由佳

要約

スタンドポイント・アプローチは、これまで等閑視されてきた「女性」に対する抑圧や権力の存在を明らかにするために、女性の「立場」(standpoint)を中心とした新たな視点を取り入れた方法論である。初期のスタンドポイント・アプローチは、「女性」と「家父長制」を普遍的なものとみなし、現実の女性の多様性について重視していないという批判をうけた。現在のスタンドポイント・アプローチは、このような批判をとりこみつつ修正、発展を続けている。女性の多様性を認識し、女性をとりまく複雑な権力関係を明らかにするために、スタンドポイント・アプローチはいまだ有効な方法論であるといえよう。

キーワード スタンドポイント・アプローチ 方法論、ジェンダー、フェミニズム

はじめに

スタンドポイント・アプローチとは、女性の視点からの社会分析によって、男性の視点からのものよりも、その社会を構築している権力関係やイデオロギーをより明らかにすることができるという考えに基づいて発展してきた方法論である[Visweswaran 1997; Naples 2003, 21; Hartsock 2004(1983), 36; Hekman 2004(1983), 225]。その考え方自体は 1970 年代に生まれたものであり、80 年代にはフェミニズム研究の重要な方法論として注目を集めた[Harding 2004b, 1]。具体的に「スタンドポイント」(standpoint)という言葉を使っている論文としては、Hartsock [2004(1983)]が最初であるが、ほぼ同義である“point of view”を使用して、“point of view of women’s place”の重要性を主張した Smith [2004(1974)]が議論の出発点であると考えられる¹。スタンドポイント・アプロー

¹ 正確には、この論文の元となった 1972 年のアメリカ科学振興協会 (American

チは、それから 40 年以上を経た現在でも、ジェンダー関係を分析する上で重要な方法論の一つである [Naples 2003; Harding 2004b, 7; Hirschmann 2004(1997), 317]。

本章では、まず、スタンドポイント・アプローチが生まれた背景を検討し、初期のスタンドポイント・アプローチの概念とそれに対する批判を紹介する。次に、その批判に対するスタンドポイント・アプローチ論者の反応をまとめる。

I 第二波フェミニズムとスタンドポイント・アプローチ

1. スタンドポイント・アプローチの背景

社会的文化的に形成された性別概念としての「ジェンダー」という言葉が広く使われるようになったのは 1970 年代以降のことである[原 1994, iii; 宇田川・中谷 2007, 1]。

ただし、19 世紀末から 20 世紀初頭には、欧米の女性の文化人類学者による女性を対象とした研究が始まっている[Visweswaran 1997]。この時期の女性を対象とした文化人類学は、参政権獲得のような男女同権を目指した第一波フェミニズムを背景にしており、「白人社会では女性が持つことを否定される選挙権、財産権、ある程度の社会活動における自立」が、なぜ「原始的」な社会の女性には認められているのかという点に、研究の問題意識があったとされる[Visweswaran 1997, 598]。たとえばミード[Mead 2001(1928); 1963(1935)]の一連のサモアの女性を対象とした文化人類学的調査は、生物学的な性差と社会的な性差は異なるものであるということを明らかにしたという点で、文化人類学におけるジェンダー研究に大きく貢献した[Visweswaran 1997, 601; 宇田川・中谷 2007, 1]。ただし、このような性差をもたらす原因の一つである権力関係についての関心は低いとも指摘されている[宇田川・中谷 2007, 2]。この時期の調査者は、ほとんどが欧米の中産階級の白人女性であり、その当時の進化論や優生学などに基づいた欧米の価値観に規定された分析にとどまっていたという批判もある[Visweswaran 1997, 601]。

1960 年代から盛り上がりを見せた第二波フェミニズムは、男女同権を目指した第一波フェミニズムからさらに進んで、男女間の権力関係や社会制度のなかの性抑圧のシステムを解明しようとするものであった[伊田 1997]²。このような第二波フェミニズムの興隆にスタンドポイント・アプローチも大きな影響をうけることとなる。特にマル

Association for the Advancement of Science) 会議でのスミスの報告である [Harding 2004c, 17]。

² ただし、第二波フェミニズムでは、リベラル・フェミニズム、ラディカル・フェミニズム、マルクス主義フェミニズムなど、さまざまな思想をベースとしたフェミニズムが現れている[伊田 1997]。本章では、特にスタンドポイント・アプローチに関連するフェミニズムを中心に論じている。

クス主義フェミニストによって、スタンドポイント・アプローチは、抑圧をもたらす権力関係を理解するための方法論として提唱されたのである[Hartsock 2004(1983), 35]。

2. 初期のスタンドポイント・アプローチ

スタンドポイント・アプローチの論者は、マルクス主義の影響を受けており、マルクス主義の議論が女性に関して無関心である点について批判しつつも、マルクス主義の持つ社会にたいする認識と方法論を広く取り入れている[Smith 2004(1974), 26; Hartsock 2004(1983); Jaggar 2004(1983)]。たとえば Smith [2004(1974)]は、マルクスの疎外 (alienation) の概念をフェミニズムに援用し、女性が労働に従事するほど、彼女たち自身を抑圧している制度を強化することになるとした。疎外された状態では、自らがどのような状況に置かれているのかを把握することは困難である。Smith は、社会学者の役割は、女性自身の経験を分析することで、疎外されている女性を社会の中心に戻すことにあり、女性の立場 (point of view of “women’s place”) の分析が重要であると主張したのである。

“Feminist Standpoint”という言葉を使った初期の論文としては、Hartsock [2004(1983)]があるが、この論文では、マルクス主義を批判的に検討しつつ、その史的唯物論 (Historical Materialism) による権力分析は、男性支配の構造を解明するのに有効であるとしている[Hartsock 2004(1983), 35]。マルクス主義が資本主義における男性の活動に焦点を当てていたのにたいして、Hartsock [2004(1983), 35]は、フェミニスト唯物論はそれをさらに発展させることができると主張し、既存の男性による女性への支配構造を解明するのに有効な方法論としてフェミニスト・スタンドポイントを挙げている。スタンドポイントの特徴は、主流となる言説が見えなくしてしまう人々の真の関係性を解明しようとする点にある[Hartsock 2004(1983), 36-37]。なぜならば、物質的生活は社会構造だけでなく社会関係も規定するが、どのように規定しているのかを明らかにするためには、支配者側の視点だけではなく、被支配者側の視点から分析する必要がある。Hartsock は、被支配者側からの分析によって、初めて表面的には隠されている人々の真の関係性が明らかになると主張したのである[Hartsock 2004(1983), 37]。

このような考え方は、労働者のスタンドポイントとしても有効であるが、フェミニスト・スタンドポイント・アプローチにとって重要な視角を提供してくれる。なぜならば、男女の関係性の分析では、公的に論じられることの少ない私的領域における権力関係が重要だからである。スタンドポイント・アプローチによって女性の日常の経験を理解することで、女性が生産的活動だけでなく再生産活動も担っているという状況がどのような社会関係に基づくものであるのかを明らかにすることができると、Hartsock [2004(1983)]は主張する。その経験とは、「男性性」や「支配」といった抽象

的な概念ではなく、日常生活の中で、「女性が料理を作ってそれを男性が食べる」とか、「男性の使用したトイレを女性が掃除する」といった具体的な形をとる。このように、女性の日常生活を理解することから、女性の抑圧を明らかにすることができるとしたのである[Hartsock 2004(1983), 43; Jaggar 2004(1983), 63]。

なお、スタンドポイント・アプローチは、スタンドポイント・セオリーとよばれる場合がある[Naples 2003; Harding 2004d, 18-20]。たとえば、2004 年に出版された Harding が編者となっているスタンドポイント・アプローチのアンソロジーは、*The Feminist Standpoint Theory: Reader* となっている[Harding 2004d]。初期のスタンドポイント・アプローチの論者の一部では、認識論として議論が進められていることもあるが[Harding 1987]、多くの初期の論者も、スタンドポイント・アプローチは方法論であるという認識をもっていただと考えられる。たとえば、Smith [1987]は、社会学におけるスタンドポイント・アプローチの適用を提唱しているが、主に手法や方法論に関連した形でスタンドポイント・アプローチの重要性を論じている。Hartsock [2004(1983), 35]も、フェミニスト・スタンドポイントについて、「すべての形態の支配を理解し、反対するための重要な『認識論的道具』(epistemological tool)」であるとしているとしている。ここでの「認識論的道具」とは方法論に相当すると考えられる。

さて、後述するように、初期のスタンドポイント・アプローチは、その対象となる女性を、欧米の白人中産階級を念頭に、家父長制のもと抑圧された女性として普遍化しているという点から批判されることとなる。そうした批判をふまえ、1980 年代には、スタンドポイント・アプローチを援用して白人中産階級出身者以外の女性を対象とした分析が行われるようになった[Visweswaran 1997, 610; Collins 2004(1983)]

Collins [2004(1983)]では、アフリカ系アメリカ人である著者がアフリカ系アメリカ人を対象とした調査をするにあたって、スタンドポイント・アプローチを適用している。その究極の目的は、さまざまなバックグラウンドを持つアフリカ系アメリカ人の声を研究者が集めることで、被調査者自身が意識していない共通のテーマを見つけ出すことにある[Collins 2004(1983), 105]。Collins [2004(1983)]は、アフリカ系アメリカ人女性の生活に、一つの集団としての共通性を求める傾向はあるものの、その中での多様性について自覚的である。たとえば、スタンドポイント・アプローチを用いるにあたっての前提として、

黒人女性としての生活が、外見上はある共通性を持っている一方で、階級、宗教、年齢、性的傾向の多様性が個々の黒人女性の生活を形成し、共通のテーマに対する表現が結果的に異なることになる。したがって、黒人女性のスタンドポイントに含まれる普遍的なテーマは、アフリカ系アメリカ人という明確な集団によってさまざまなかたちで経験され、表現されることになるだ

ろう[Collins 2004(1983), 105]。

としている。ただし、上記の主張についても、女性の多様性について自覚的である一方で、「男性による支配構造」の普遍化から逃れられているとは言いがたい。次節で述べるように、この点が、スタンドポイント・アプローチに対する主な批判点となる。

3. 第二波フェミニズムと初期のスタンドポイント・アプローチへの批判

マルクス主義フェミニズムは第二波フェミニズムの主流の一つであったが[伊田 1997, 20; Jackson 2001, 284]³、第二波フェミニズムの後期である 1980 年代には、フェミニズムの分野でもポストコロニアリズムやポストモダニズムの思想が大きな影響力をもつようになり、これまでのマルクス主義フェミニズムは批判されることとなる[Visweswaran 1997, 593; バトラー 1999; Jackson 2001, 284; Collins 2004(1983); Jaggar 2004(1983); Tong 2009, 125-126]。唯物論的フェミニズムの再評価を主張する Jackson [2001]は、マルクス主義フェミニストに対する当時の批判について以下のようにまとめている。

これらの理論[1980 年代初頭にフェミニスト理論の主流であった社会科学やマルクス主義に大きく影響を受けた理論]は、社会構造に焦点を当て、女性への抑圧を家父長制と資本主義的社会システムの産物として分析しているために、基礎付け主義 (foundationalism) や普遍主義(universalism)という瑕疵があり、本質主義者、人種差別主義者、異性愛主義者の疑いがあるものとして、しばしば描かれてきた[Jackson 2001, 284]。

スタンドポイント・アプローチの論者の多くはマルクス主義フェミニストであるために、マルクス主義フェミニズムとスタンドポイント・アプローチへの批判点は重複していることが多い。スタンドポイント・アプローチも、マルクス主義フェミニズム同様、男女の関係性や女性を抑圧する社会制度が世界共通のものであるという前提をもち、人種、階級、性的傾向といった女性の多様性を等閑視しているとして、本質主義 (essentialism)、普遍主義であるという批判を受けたのである[Harding 2004b, 8; Hekman 2004(1997), 225]。

このような批判の背景には、ジェンダーの問題に対し、欧米の知的中流階級出身の女性だけでなく、多様な女性たちによるフェミニズム運動が興隆してきたことがある。

³ マルクス主義とフェミニズムの関係に関する議論の詳細については、古田 [1997]、岩本 [1997]を参照のこと。

このような運動は、「有色人種、貧困者、第三世界の女性、レズビアンのアメリカ人女性が排除されている」として既存のフェミニズムの議論を批判し、その結果多様な女性のジェンダー関係が、議論の視角に加えられたのである[Narayan 2004(1989); Hirschmann 2004(1997), 317-318; Tong 2009, 204]。

先進国においてはブラック・フェミニズムが挙げられるが、発展途上国においては、ポストコロニアル・フェミニズムがこれまでのフェミニズムの視角を大きく広げる役割を果たした。ポストコロニアル主義の議論の焦点は、「植民地主義的な認識の枠組みや西洋中心的な志向を暴き、抑圧的なステレオタイプに基づいた文化表象を問いただす」ことにある[川橋 2007, 294]。したがって、ポストコロニアル・フェミニズムの論者は、男性との関係性だけでなく「政治的に逆行した人種差別主義者、帝国主義者、奴隷に関する性差別的な言説 (sexist discourses of slavery)、植民地主義、現代資本主義」といったさまざまなものが「歴史を構築してきた」と主張する[Mohanty 1991, 4]。

また、ポストモダニズムの議論も、「多元的でミクロな権力構造」を前提としており、「男性による支配」という単純な支配構造を前提としたこれまでのフェミニズムとは一線を画している[岩本 1997, 354]。さらに、ポストモダニズムの一つの特徴である、性差は物質性よりも言説的に構築されたものであるというスタンスは、経済的な側面を重視するスタンドポイント・アプローチやマルクス主義フェミニズムの議論とはなじまない[Jackson 2001]。1980年代後半には、フェミニズムの議論は「文化的『転回』」(cultural “turn”)をみせ、マルクス主義に起源をもつフェミニズムは時代遅れとされたのである[Jackson 2001, 284-286; Hekman 2004(1997), 225]。

II スタンドポイント・アプローチ再考

初期のスタンドポイント・アプローチは、それまでのマルクス主義から抜け落ちていたジェンダーの視点からの方法論を提示することによって、マルクス主義フェミニズムの議論の発展に大きく貢献した。しかし、マルクス主義フェミニズムとともに初期のスタンドポイント・アプローチは、「女性」の多様性への目配りが足りなかったと批判されることとなった。

しかし、現実の女性をとりまく状況を考えた場合、ポストモダン・フェミニズムにおける文化・言説重視を批判し、ジェンダー関係を論ずるにあたって物質性を放棄すべきではないのではないかという、一種の揺り戻しともいえる議論もある[岩本 1997; Jackson 2001; Tong 2009, 126-127]。ポストモダン・フェミニズムの議論に対しては現実の問題を解決できない「学者のフェミニズム」に過ぎないという批判もある[Tong 2009, 283]。たとえば、Nanda [1997]は、ポストモダニズムを下敷きにしたエコフェミニズムを、女性を取り巻く経済的、社会的抑圧を無視しているとして批判している。エコフ

フェミニズムを提唱する Shiva and Mies [1993]の、インドにおける緑の革命がもたらす「西洋の家父長的破壊」に対して、深く自然と結びついている女性こそが対抗できるとする主張に対して、インドの女性が自然と深く結びついたものとして称揚することによって、無償で無価値な仕事を女性に押し付ける性別分業の存在を無視していると批判したのである。

スタンドポイント・アプローチは、フェミニズムの新たな議論を受け、批判に対する反論とともにさまざまな修正をおこなってきた[Harding 2004a]。しかし、よりポストモダンな議論に寄り添ったものから、あくまで唯物論的フェミニズムを基盤とするものまで、「女性の視点 (Women's Standpoint)」からの分析をどのように扱うのかについては、結論を出すというよりは、各研究者の解釈に委ねられている状況にあるといえよう[Hartsock 1997; Collins 2004(1997); Hekman 2004(1997); Hirschmann 2004(1997); Smith 2004(1997)]。

より唯物論的フェミニズムに近い主張をもち、権力構築のプロセスの解明を目指す論者の場合は、個々の女性の多様性を認めつつも、スタンドポイント・アプローチを通して個人を取り巻く権力関係を理解し自覚するところから、隠されていた権力構築のプロセスを明らかにすることができるとしている[Hartsock 1997; Collins 2004(1997)]。

スタンドポイント・アプローチを通して、日常生活レベルでの女性の解放、啓蒙を志向する場合もある。男性の優位性とそれに基づいた知識によって構築されてきた権力を無自覚に受け入れてきた女性が、スタンドポイント・アプローチを通して権力による抑圧を自覚することで、生活を改善することができるという主張である[Harding 2004(1997), 255]。

また、スタンドポイント・アプローチは、女性間の差異、特異性、歴史の影響を認識しているがゆえに、ジェンダー関係を解明する有効な方法論であるということをも再認識すべきという主張もある[Hirschmann 2004(1997), 320]。Hirschmann は、スタンドポイント・アプローチの議論が、共通の前提として、女性自身の社会関係の見方 (standpoint) は、既存の権力関係の中で本人に抑圧の自覚が無いまま形成されていくとしているものの、その「見方」はそれぞれの女性の経験によって異なっているということも考慮していることを評価している[Hirschmann 2004(1997), 320]。スタンドポイント・アプローチは、決して普遍的な結論を求めるものではなく、その多様性を明らかにすることを目指す方法論であるとしているのである。

むすびにかえて

スタンドポイントという言葉は使っていないが、Abu-Lughod [2006(1991), 156]は、フェミニスト文化人類学者の調査に関して、「立ち位置」(positionality) という言葉を

使っている。彼女は、フェミニスト文化人類学者に対する、女性を対象とした調査では社会の一部しか提示できないという批判に対して、どのような社会調査も所詮は部分的なものに過ぎず、重要なのは、それぞれの調査が「その位置からの真実」(positioned truths)に過ぎないことを認識することだとする[Abu-Lughod 2006(1991), 156]。

スタンドポイント・アプローチについても同様である。女性自身と、女性をとりまく環境の多様性を考えれば、普遍的な大きな物語をつむぐことはもはやできないかもしれないが、日々の女性の生活を理解することによって、そこに見出される複雑な権力関係を分析し提示することは、その社会を解明することに十分貢献することになるといえるだろう。

参考文献

[日本語文献]

- バトラー、ジュディス 1999. 竹村和子訳『ジェンダー・トラブル：フェミニズムとアイデンティティの攪乱』青土社 (J.Butler, *Gender Trouble: Feminism and the Subversion of Identity*, New York & London: Routledge, 1990) .
- 伊田久美子 1997. 「ラディカル・フェミニズム」江原由美子・金井淑子編『フェミニズム』新曜社.
- 宇田川妙子・中谷文美 2007. 「序章」宇田川妙子・中谷文美編『ジェンダー人類学を読む』世界思想社.
- 岩本美砂子 1997. 「ポスト・マルクス主義フェミニズム」宇田川妙子・中谷文美編『ジェンダー人類学を読む』世界思想社.
- 原ひろ子 1994. 「人間の現実に迫るプリズム・パラダイム・シフトにおけるジェンダー」原ひろ子・大沢真理・丸山真人・山本泰編『ジェンダー』新世社.
- 古田睦美 1997. 「マルクス主義フェミニズム」江原由美子・金井淑子編『フェミニズム』新曜社.
- 川橋範子 2007. 「ポストコロニアリズム・フェミニズム・宗教」江原由美子・金井淑子編『フェミニズム』新曜社.

[外国語文献]

- Abu-Lughod, Lila 2006[1991]. "Writing against Culture." in *Feminist Anthropology: A Reader*, ed. Lewin. Malden/Oxford/Victoria: Blackwell.
- Collins, Patricia Hill 2004(1983). "Learning from the Outsider Within: The Sociological Significance of Black Feminist Thought." in *The Feminist Standpoint Theory Reader: Intellectual and Political Controversies*, ed. Harding. New York: Routledge.
- 2004(1997). "Comment on Hekman's "Truth and Method: Feminist Standpoint

- Theory Revisited": Where's the Power?" in *The Feminist Standpoint Theory Reader: Intellectual and Political Controversies*, ed. Harding. New York: Routledge.
- Harding, Sandra G. 2004a."Introduction: Controversies, Limits, Revisionings." in *The Feminist Standpoint Theory Reader: Intellectual and Political Controversies*, ed. Harding. New York & London: Routledge.
- 2004b."Introduction: Standpoint Theory as a Site of Political, Philosophic, and Scientific Debate." in *The Feminist Standpoint Theory Reader: Intellectual and Political Controversies*, ed. Harding. New York & London: Routledge.
- 2004c."The Logic of a Standpoint: Introduction." in *The Feminist Standpoint Theory Reader: Intellectual and Political Controversies*, ed. Harding. New York: Routledge.
- 2004(1997)."Comment on Hekman's "Truth and Method: Feminist Standpoint Theory Revisited": Whose Standpoint Needs the Regimes of Truth and Reality?". in *The Feminist Standpoint Theory Reader: Intellectual and Political Controversies*, ed. Harding. New York: Routledge.
- 2004d. *The Feminist Standpoint Theory Reader: Intellectual and Political Controversies*. New York: Routledge.
- Hartsock, Nancy, C.M. 2004(1983)."The Feminist Standpoint: Developing the Ground for a Specifically Feminist Historical Materialism." in *The Feminist Standpoint Theory Reader: Intellectual and Political Controversies*, ed. Harding. New York: Routledge.
- 1997."Comment on Hekman's" Truth and Method: Feminist Standpoint Theory Revisited": Truth or Justice?" *Signs*, 22 (2): 367-374.
- Hekman, Susan 2004(1983)."Truth and Method: Feminist Standpoint Theory Revisited." in *The Feminist Standpoint Theory Reader: Intellectual and Political Controversies*, ed. Harding. New York: Routledge.
- 2004(1997)."Truth and Method: Feminist Standpoint Theory Revisited." in *The Feminist Standpoint Theory Reader: Intellectual and Political Controversies*, ed. Harding. New York: Routledge.
- Hirschmann, Nancy, J. 2004(1997)."Feminist Standpoint as Postmodern Strategy." in *The Feminist Standpoint Theory Reader: Intellectual & Political Controversies*, ed. Harding. New York and London: Routledge.
- Jackson, Stevi 2001."Why a Materialist Feminism Is (Still) Possible--and Necessary." *Women's Studies International Forum*, 24: 283-293.
- Jaggar, Alison M. 2004(1983)."Feminist Politics and Epistemology: The Standpoint of Women." in *The Feminist Standpoint Theory Reader: Intellectual and Political Controversies*, ed. Harding. New York: Routledge.

- Mead, M 1963(1935). *Sex and Temperament in Three Primitive Societies*. New York: Morrow.
 ----- 2001(1928). *Coming of Age in Samoa*. New York: Mollow.
- Mohanty, Chandra Talpade 1991."Cartographies of Struggle: Third World Women and the Politics of Feminism." in *Third World Women and the Politics of Feminism*, ed. Mohanty, Russo and Torres. Bloomington & Indianapolis: Indiana University Press.
- Nanda, Meera 1997.""History Is What Hurts": A Materialist Feminist Perspective on the Green Revolution and Its Ecofeminist Critics." in *Materialist Feminism: A Reader in Class, Difference, and Women's Lives*, ed. Hennessy and Ingraham. New York & London: Routledge.
- Naples, Nancy A. 2003. *Feminism and Method: Ethnography, Discourse Analysis, and Activist Research*. New York: Routledge.
- Narayan, Uma 2004(1989)."The Project of Feminist Epistemology: Perspectives from a Nonwestern Feminist." in *The Feminist Standpoint Theory Reader: Intellectual and Political Controversies*, ed. Harding. New York: Routledge.
- Shiva, Vandana and Maria Mies 1993. *Ecofeminism*. London & New Jersey: Zed Books.
- Smith, Dorothy E 1987. *The Everyday World as Problematic: A Feminist Sociology*. Boston: Northeastern University Press.
 ----- 2004(1974)."Women's Perspective as a Radical Critique of Sociology." in *The Feminist Standpoint Theory Reader: Intellectual and Political Controversies*, ed. Harding. New York: Routledge.
- 2004(1997)."Comment on Hekman's "Truth and Method: Feminist Standpoint Theory Revisited"." in *The Feminist Standpoint Theory Reader: Intellectual and Political Controversies*, ed. Harding. New York: Routledge.
- Tong, R 2009. *Feminist Thought: A More Comprehensive Introduction (Third Edition)*. Boulder: Westview Press.
- Visweswaran, Kamala 1997."Histories of Feminist Ethnography." *Annual Review of Anthropology*, 26: 591-621.